

株主・投資家の皆様へ

Quality products,
Competitive prices, and
Timely delivery

第71期中間報告書

平成19年4月1日から平成19年9月30日まで



IMASEN
ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.
ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.

株式会社 今仙電機製作所



代表取締役会長

若山 恭二



代表取締役社長

増谷 修

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第71期中間期の業績について、ご報告させていただきます。

経営理念

Philosophy

Mission —IMASENの使命—

想像力を豊かにし、これまでに存在しない全く新しい製品・サービスを創造し、これをより安く、より速く、世の中に提供することで、人々の豊かな暮らしに貢献いたします。

Value —IMASENが大切にするモノ 価値観・行動指針—

挑戦
Challenge

「ありたい姿」を描き、高い目標を設定して、積極果敢にチャレンジしよう。
現状維持＝衰退、常に今より良い状態を目指し、改善にチャレンジしよう

創意工夫
Idea

既存概念にとらわれず、創意工夫を積み重ねて、問題を乗り越えよう。
困難な問題も簡単にあきらめず、知恵と工夫を出し合えば解決できる

自主性
Initiative

仲間との連携を大切にしつつ、自主・平等・信頼の精神で主体的に行動しよう。
「誰かがやる」ではなく、「自分がやる」という姿勢で仲間と連携しよう

長期経営方針

Vision

Proud 73 —誰もが誇れるIMASENを目指して—

Proud 73 Vision —IMASENの事業ビジョン—

量から質への転換

1. シートアジャスタで世界トップレベルの企業になる。
2. 電子ユニットを第2の主力製品として確立する。
3. 既存事業にとられない新事業を発掘する。

Q 当中間連結会計期間における営業の概況についてお聞かせください

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、原油価格、原材料価格の高騰による懸念材料がありましたが、企業収益は引き続き好調に推移しており、設備投資の増加や雇用情勢・所得環境の改善による個人消費は底堅く推移するなど、景気は緩やかながらも拡大傾向が続く状況となりました。

また世界経済につきましては、サブプライム問題の影響により米国経済に減速感があるものの、中国、インドをはじめとするアジア経済は高成長を持続するなど、世界経済は総じて堅調に推移してまいりました。

当社グループの主要基盤である自動車業界の上期の状況につきましては、普通車の国内販売台数は2年連続して前年同期を下回る状況が続いており、国内の自動車生産につきましてもロシアを含む欧州や中近東、中南米向けの輸出は増加しましたが、米国向けが減少したことにより、国内総生産台数は4年ぶりに前年実績を下回る結果となりました。一方、海外市場における自動車販売は中国をはじめとした新興国向けを中心に伸びており、日系自動車メーカーの海外生産台数につきましても国内生産台数を上回る状況となりました。

このような経営環境の中で、当社グループは世界最適供給体制の構築に向けた海外戦略を推し進めるとともに、グループ全体の経営資源を有効活用した経営基盤の強化、総原価低減活動による収益力の向上、品質至上主義に徹した顧客満足度の向上を図ってまいりました。

国内の状況につきましては生産体制の再編、増強、合理化に着手し、主力製品であるシートアジャスタの生産拠点として、岐阜工場及び株式会社九州イマセンの稼働を開始しております。

一方、新たな海外展開といたしまして今後一層の需要拡大による自動車生産の増加が予想されるインドに、本年11月15日、現地法人「イマセン マニュファクチュアリング インディア プライベート リミテッド」を設立いたしました。

また、生産増強の設備投資に対応するため、総額3,000百万円の無担保転換社債型新株予約権付社債を11月1日に発行しております。

Q 連結での業績面はいかがですか？

当中間連結会計年度の売上高につきましては、自動車部品関連事業の売上が好調に推移したことにより、41,621百万円（前年同期比20.0%増）となりました。

利益面につきましては、売上の増加に加え、当社グループを挙げて総原価の低減に取り組んだ結果、経常利益は2,827百万円（前年同期比206.3%増）、中間純利益につきましては1,856百万円（前年同期比256.9%増）となりました。

Q 今後の取り組みについて教えてください

今後の経済状況の見通しにつきましては、米国経済の景気減速が懸念されますが、中国をはじめとするアジア地域の経済状況につきましては、引き続き堅調に推移するものと予想されます。

一方、国内経済の状況につきましては、内外需の好調から景気は緩やかな拡大を続けるものと期待されますが、依然として高騰する原油価格、原材料価格の高止まりなどによる企業収益や個人消費の鈍化が懸念され、自動車業界におきましてもガソリン価格の高騰、若年層の車離れなどによる自動車販売の低調傾向は続くものと予想されます。

当社グループの基盤である自動車業界におきましては、安全対策や環境問題への対応が強まる中、今後もグローバル化の加速とともに現地生産の一層の拡大が予想され、自動車部品関連事業におきましても、これらに対応した供給体制の強化が重要課題となってまいります。

このような経営環境の中で、当社グループは世界最適供給体制の構築を掲げ、シートアジャスタ事業を中心に生産能力を増強し、生産効率と品質を追求した生産体制の構築を進めてまいります。さらに機構技術と電子技術の融合による製品の高機能化、高付加価値化を推し進め、量から質への転換を図ってまいります。

また、グループ全体の経営資源を有効利用した経営基盤の強化、総原価低減活動による収益力の向上、品質至上主義に徹した顧客満足度向上を図り、誰もが誇れる I M A S E N を築き上げることを目指してまいります。

インド現地法人を設立

当社は、今後一層の需要拡大による自動車生産の増加が予想されるインドにおける受注獲得を目指し、本年11月15日、新たな生産拠点としてインドに現地法人を設立いたしました。

インドは、IT産業に支えられた経済発展を背景に、自動車市場としても急速な拡大を続けており、日系自動車メーカー各社による新たな進出、生産拡大などが計画されており、安定した受注が期待できるものとして進出を決定したものであります。

なお、当社におきましては、台湾、フィリピン、米国、中国、タイに次ぐ、第6の海外生産拠点となります。



商 号：IMASEN MANUFACTURING INDIA PRIVATE LIMITED
イマセン マニュファクチュアリング インディア
プライベート リミテッド (IMIP)

所 在 地：ニムラナ工業団地（インド ラジャスタン州）

設 立：2007年11月15日

主 要 製 品：自動車用シートアジャスタ

資 本 金：約3億円（2008年6月 2億円増資予定）

従 業 員：約170名（2012年度予定）

稼 動：2009年8月予定



新生産拠点から近況報告

今仙電機製作所 岐阜工場

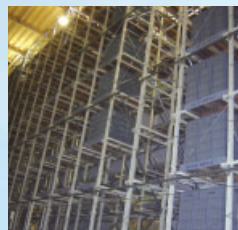
当社のマザー工場として本年6月より稼動を開始しております岐阜工場は、プレス、塗装、溶接、組立の一貫生産設備を備え、順調に稼動しております。

現在では、新規立ち上がり製品である日産自動車様向けのパワーシートアジャスタや、名古屋工場より移管いたしました本田技研工業様向けのマニュアルシートアジャスタを生産しております。

10月末時点での従業員数は約380名。岐阜工場は、今後一層の増産・増員が予定されています。



塗装ライン



自動ラック



ロボットプレスライン

株式会社 九州イマセン

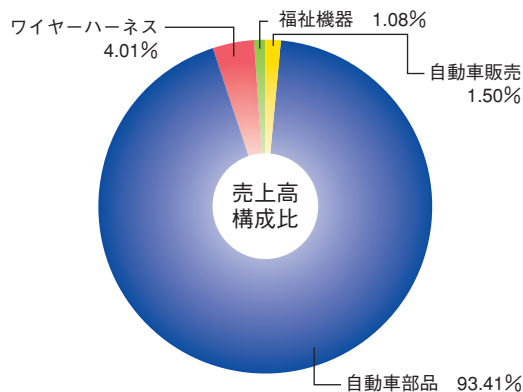
当社の主力製品であるシートアジャスタの、九州地区における新たな生産拠点として本年4月に設立された株式会社九州イマセンは、本年6月より操業を開始しております。

九州イマセンでは、主に九州の日産自動車様向けにマニュアルシートアジャスタを生産しておりますが、一部、韓国のルノー様向けに輸出もしております。

現在およそ120名の従業員にて、月産40,000脚のマニュアルシートアジャスタを生産いたしております。



事業別営業の概況（連結）



自動車部品関連事業

日本及びアジア地域における中国、タイ、フィリピンでの子会社が順調に推移したことから、売上高は38,880百万円（前年同期比20.4%増）、営業利益は2,485百万円（前年同期比200.4%増）となりました。

ワイヤーハーネス関連事業

航空宇宙関連機器向けの受注が回復傾向にあり、また工作機械業界向けの受注が好調に推移したことから、売上高は1,670百万円（前年同期比28.1%増）、営業利益は201百万円（前年同期比294.4%増）となりました。

福祉機器関連事業

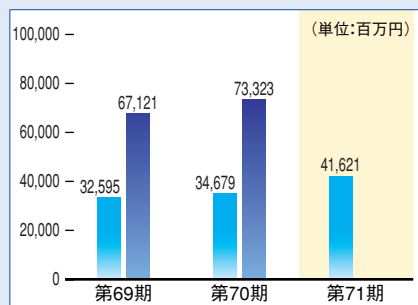
福祉業界は補助金制度の変更などにより、引き続き厳しい環境下におかれております。このような中、受注拡大を目指し、高機能製品の開発を行うとともに、総原価低減に努めてまいりましたが、売上高は447百万円（前年同期比19.6%減）、営業利益は18百万円（前年同期比77.1%減）となりました。

自動車販売関連事業

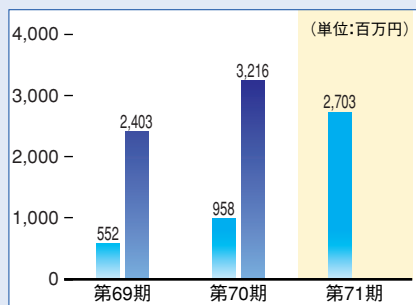
国内自動車販売は厳しい状況が続いておりますが、新型車の販売効果により売上高は623百万円（前年同期比18.5%増）、営業利益は12百万円の損失（前年同期は13百万円の損失）となりました。

財務ハイライト（連結）

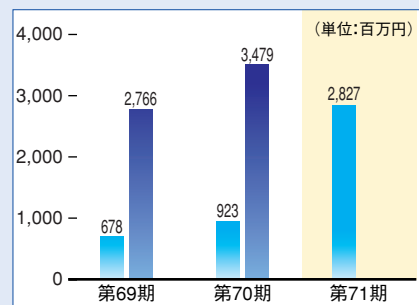
売上高



営業利益

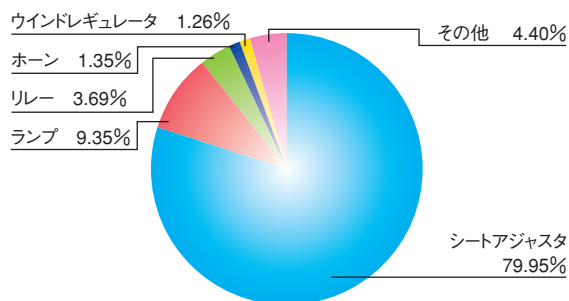


経常利益

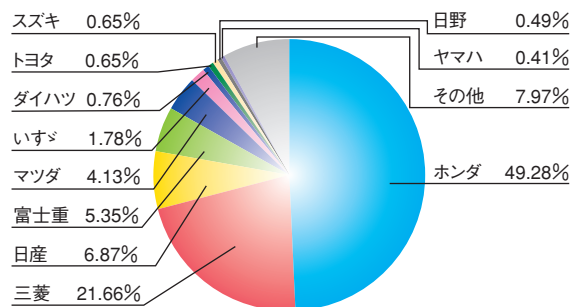


自動車部品関連事業

■製品別売上高構成比



■販売先別売上高構成比



■主要製品



パワーシートアジャスタ



ラウンドリクライニングユニット



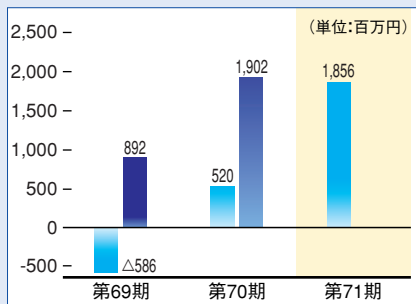
テールランプ



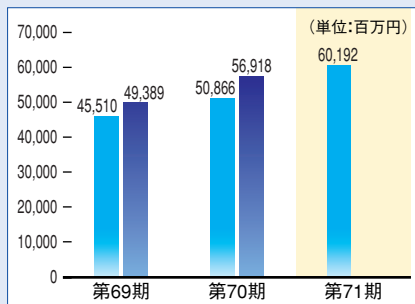
電子ユニット

■ 中間 ■ 通期

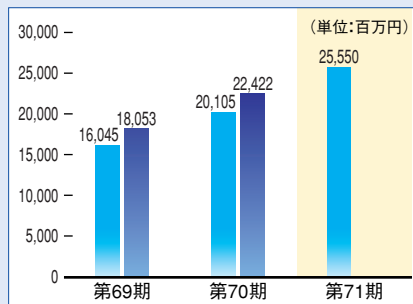
純利益



総資産



純資産



連結決算の状況

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当中間期 H.19.9.30現在	前期 H.19.3.31現在	前中間期 H.18.9.30現在
資産の部			
流動資産	31,657	31,091	27,025
固定資産	28,534	25,826	23,840
資産合計	60,192	56,918	50,866
負債の部			
流動負債	26,793	24,899	22,239
固定負債	7,849	9,597	8,520
負債合計	34,642	34,496	30,760
純資産の部			
株主資本	22,678	19,837	18,129
評価・換算差額等	1,951	1,715	1,145
少数株主持分	919	869	830
純資産合計	25,550	22,422	20,105
負債純資産合計	60,192	56,918	50,866

資産の部

流動資産は、営業活動に伴う受取手形や売掛金の増加（1,414百万円）などにより、31,657百万円（前期末比566百万円の増加）、固定資産は、当社岐阜工場の建設、生産設備の増強などにより、28,534百万円（前期末比2,707百万円の増加）となりました。

負債の部

流動負債は、設備投資による未払金の増加（1,784百万円）などにより、26,793百万円（前期末比1,894百万円の増加）、固定負債は、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴う減少（1,102百万円）などにより、7,849百万円（前期末比1,748百万円の減少）となりました。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	当中間期 H.19.4.1～H.19.9.30	前期 H.18.4.1～H.19.3.31	前中間期 H.18.4.1～H.18.9.30
売上高	41,621	73,323	34,679
売上原価	35,209	63,096	30,305
売上総利益	6,411	10,226	4,374
販売費及び一般管理費	3,708	7,010	3,416
営業利益	2,703	3,216	958
営業外収益	259	566	141
営業外費用	135	303	176
経常利益	2,827	3,479	923
特別利益	3	2	2
特別損失	11	237	57
税金等調整前中間（当期）純利益	2,819	3,244	867
法人税、住民税及び事業税	840	1,100	282
法人税等調整額	69	205	56
少数株主利益	52	36	8
中間（当期）純利益	1,856	1,902	520

純資産の部

純資産の残高は、25,550百万円（前期末比3,127百万円の増加）となりました。その主なものは、中間純利益及び転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴う資本金、資本剰余金の増加であります。

利益面につきましては、売上の増加に加え当社グループを挙げて総原価の低減に取り組んだ結果、経常利益は2,827百万円（前年同期比206.3%増）、中間純利益につきましては1,856百万円（前年同期比256.9%増）となりました。

中間連結株主資本等変動計算書

H.19.4.1～H.19.9.30

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年3月31日残高	3,791	3,524	12,523	△2	19,837
中間連結会計期間中の変動額					
新株の発行	550	550			1,101
剰余金の配当			△115		△115
中間純利益			1,856		1,856
自己株式の取得				△2	△2
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）					
中間連結会計期間中の変動額合計	550	550	1,741	△2	2,841
平成19年9月30日残高	4,342	4,075	14,264	△5	22,678

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	1,590	124	1,715	869	22,422
中間連結会計期間中の変動額					
新株の発行					1,101
剰余金の配当					△115
中間純利益					1,856
自己株式の取得					△2
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）	△163	400	236	50	286
中間連結会計期間中の変動額合計	△163	400	236	50	3,127
平成19年9月30日残高	1,426	525	1,951	919	25,550

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間期 H.19.4.1～H.19.9.30	前中間期 H.18.4.1～H.18.9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,705	1,068
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,846	△1,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,580	153
現金及び現金同等物に係る換算差額	65	△14
現金及び現金同等物の増減額	△655	△668
現金及び現金同等物の期首残高	3,111	3,528
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,455	2,859

当中間連結会計期間において営業活動の結果得られた資金は、主に税金等調整前中間純利益、減価償却費により、2,705百万円（前年同期比153.2%増）となりました。投資活動に使用した資金は、主に有形固定資産の取得により、1,846百万円（前年同期比1.6%減）となりました。財務活動に使用した資金は、主に長期借入金の返済により、1,580百万円（前年同期は153百万円の収入）となりました。この結果、当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は2,455百万円と前連結会計年度末に比べ655百万円の減少となりました。

単体決算の状況

中間貸借対照表

(単位：百万円)

	当中間期 H.19.9.30現在	前期 H.19.3.31現在	前中間期 H.18.9.30現在
資産の部			
流動資産	25,302	24,334	22,893
固定資産	25,023	22,667	21,469
資産合計	50,325	47,001	44,362
負債の部			
流動負債	23,322	20,252	19,636
固定負債	5,558	7,388	6,819
負債合計	28,880	27,641	26,456
純資産の部			
株主資本	20,069	17,812	16,424
評価・換算差額等	1,375	1,547	1,481
純資産合計	21,445	19,360	17,906
負債純資産合計	50,325	47,001	44,362

中間損益計算書

(単位：百万円)

	当中間期 H.19.4.1～H.19.9.30	前期 H.18.4.1～H.19.3.31	前中間期 H.18.4.1～H.18.9.30
売上高	30,975	56,653	26,394
売上原価	27,059	49,594	23,470
売上総利益	3,915	7,059	2,923
販売費及び一般管理費	2,608	5,207	2,575
営業利益	1,307	1,851	347
営業外収益	776	801	677
営業外費用	176	284	123
経常利益	1,907	2,368	902
特別利益	1	1	1
特別損失	7	144	57
税引前中間（当期）純利益	1,902	2,225	846
法人税、住民税及び事業税	569	641	128
法人税等調整額	60	87	76
中間（当期）純利益	1,272	1,496	641

中間株主資本等変動計算書

H.19.4.1～H.19.9.30

(単位：百万円)

	株 主 資 本						評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	3,791	3,524	210	10,287	△2	17,812	1,547	1,547	19,360
中間会計期間中の変動額									
新株の発行	550	550				1,101			1,101
剰余金の配当				△115		△115			△115
中間純利益				1,272		1,272			1,272
自己株式の取得					△2	△2			△2
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）							△171	△171	△171
中間会計期間中の変動額合計	550	550		1,157	△2	2,256	△171	△171	2,084
平成19年9月30日残高	4,342	4,075	210	11,444	△5	20,069	1,375	1,375	21,445

株式情報 (平成19年9月30日現在)

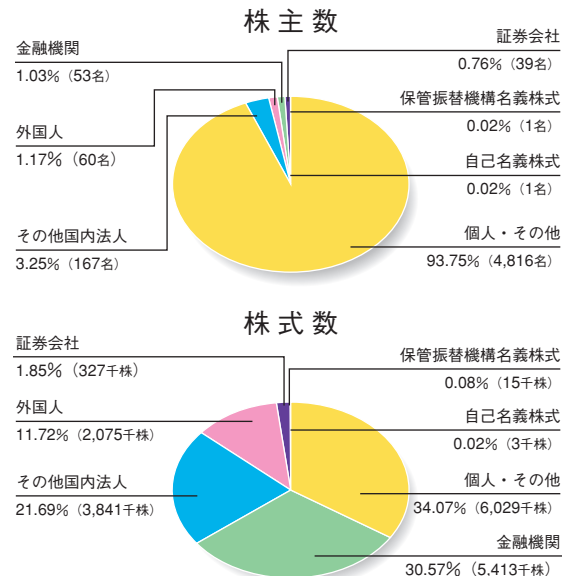
◆ 株式の状況

発行可能株式総数49,195,000株
 発行済株式の総数17,705,713株
 株主数5,137名

◆ 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (株)	出資比率 (%)
本 田 技 研 工 業 (株)	1,066,250	6.02%
日本マスタートラスト信託銀行(株)	787,600	4.44%
I M A S E N 取引先持株会	676,800	3.82%
ヤ マ ハ 発 動 機 (株)	613,750	3.46%
(株)三菱東京UFJ銀行	605,000	3.41%
今仙電機従業員持株会	561,516	3.17%
(株) 第 三 銀 行	505,000	2.85%
東京海上日動火災保険(株)	505,000	2.85%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	468,000	2.64%
ドイツバンクアーク・ロンドン・ビービー・ノントリツク・ライアンツ613	467,800	2.64%

◆ 株式分布状況



会社の概況

◆ 会社の概要 (平成19年9月30日現在)

社 名	株式会社 今仙電機製作所 Imasen Electric Industrial Co.,Ltd.
設 立	昭和14年2月1日
資 本 金	4,342,920,720円
主な事業内容	自動車用機構製品および電装製品の製造・販売
従業員数	1,531名
本社所在地	愛知県犬山市字柿畑1番地
営 業 所	東京支店／広島支店／栃木支店
工 場	名古屋工場／広島工場／可児工場／ 岡山工場／八百津工場／春里工場／岐阜工場

◆ 役員 (平成19年9月30日現在)

代表取締役会長	若 山 恭 二	取 締 役	丹 羽 和 秋
代表取締役社長	増 谷 修	常 勤 監 査 役	河 村 則 行
専務取締役	水 口 洋 司	常 勤 監 査 役	山 田 幹 雄
常務取締役	大 澤 慶 文	監 査 役	尾 関 誠 治
常務取締役	上 西 正 司	監 査 役	宮 澤 俊 夫
常務取締役	梅 田 敏 雄		
取 締 役	田 野 信 行		
取 締 役	宇 根 敏 昭		
取 締 役	鵜 飼 菊 雄		
取 締 役	植 松 俊 夫		
取 締 役	渡 辺 和 彦		

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 配当金の基準日 利益配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取次所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
- 単元未満株式の買取 単元未満株式の買取請求は、上記の株主名簿管理人事務
取扱場所および同取次所でお取扱いしております。
- 単元株式数 100株
- 公告の方法 日本経済新聞に掲載して行います。
- 証券コード 7266（東京・名古屋証券取引所市場第一部）

（お知らせ）

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用下さい。

- フリーダイヤル 0120-87-2031（24時間受付；自動音声案内）
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

株式会社今仙電機製作所

〒484-8507 愛知県犬山市市柿畑1番地 TEL（0568）67-1211（代表）

当社ホームページ紹介

当社およびグループ会社の概要、財務・製品・採用・決算等の最新情報につきましては、ホームページにてご案内しております。

ぜひ、下記アドレスまでアクセスしていただきますようご案内申し上げます。



URL <http://www.imasen.co.jp>

株主の皆さまの声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7266

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。（株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900（平日 10:00～17:30）MAIL:info@e-kabunushi.com